

4月10日(火)

神の大なる赦し

聖書朗読 マタイ 9:1~8

あなたのような神様が、ほかにあるでしょうか。あなたは、咎を赦し、ご自分のものである残りの者のために、そむきの罪を見過ごされ、怒りをいつまでももち続けず、いつくしみを喜ばれるからです。 ミカ 7:18

カペナウムで足の悪い友人をキリストのもとに連れてきた信仰深い友人たち。この話はマタイによる福音書でキリストが救い主としての権威を持っている事を記す一連の話の中の一つです。イエス様には病気を癒すのと同じように罪を赦す権威があります。弟子を呼び出すのと同じように、嵐を静めることもお出来になります。ここで記されているイエス様の権威は、イエス様ご自身とともに、この地上に神の国が現れていることのきざしの一つであるといえます。

この中風の患者の話は、神のみが罪を赦す権威を持つと信じる律法学者にとって躓きの種となりました。イエス様は、神と同様の権威のあるものとして彼らの心の中にある問題を指摘し、答えられない質問を返したのです。彼の質問は「罪の赦しとともに、病気は癒されるのか」です。

私たちにとってはそう違いのないことかもしれません。実際に触れる、感じることで癒しを受けるほうが、イエス様には罪を赦す力があると信じるよりも簡単でわかりやすいのです。イエス様に神様と同じ権威があるということを信じなければ、私たちは知らないうちに罪を心に留め、その罪によって心が膿んでしまうのです。

ですから私たちもその場で神様を称えた人々のように、キリストの罪をも赦す権威を信頼し称えましょう。

讃美歌 第二篇 191

祈り 聖なるお父様。イエス様を通して与えてくださった赦しを受け取ることができますように。あなたが私たちの罪を、また私たちの周りを取り巻く人にある罪を赦すことができますように。あなたの恵みはなんとすばらしいでしょう。

イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

クレイグ・ボウマン

ミシガン州 ロックスター

4月11日(水)

キリストに躓きますか

聖書朗読 マタイ 11:2~6

だれでもわたしにつまずかない者は幸いです。

マタイ 11:6

ヨハネの弟子たちがイエス様のところへやってきて「あなたは私たちが待っていた方ですか？ それとも別な方がこれから来るのを待つべきですか」と尋ねたとき、答えた言葉が今日の聖書箇所です。このヨハネは、イエス・キリストにバプテスマを授け、聖霊が鳩のように下るのを見、天から神様の声を聴いたあのヨハネです。どうしてその事実を疑ったのでしょうか？ ヨハネはそのとき牢屋に閉じ込められ、不安でいっぱいだったに違いありません。暗い独房にいて、自分が救い主だと信じた人が、外でどのような活動をしているかを耳にし、それが期待した行動ではないことに疑問を抱いたのではないのでしょうか？

人生が暗礁に乗り上げてしまったとき、信仰が試され、このときのヨハネのように神に問わずにはいられなくなります。神様は本当におられるのでしょうか、私たちの声を聞いてくださっているのでしょうか？ 悲劇が起こったり、または祈っているのに何も変わらなかったりしたとき、神様から離れてしまいませんか？ 私たちの期待するようにしてくださらない神様に躓くことはありませんか？

私たちが私たちなりに想像する有限の神様ではなく、神様がどのようなお方であるかに目を向けているときに、私たちは祝福を受けるのだとイエス様はおっしゃいます。私たちの想像する神様が、本当にすべてを明け渡して信ずるにふさわしい神様かどうか、改めて考えてみてください。

聖歌 274

祈り 親愛なる神様。疑いと戸惑いが心を支配しているとき、すべてが理解できなくてもあなたに信頼することができるように助けてください。私の信仰をどうか強めてください。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

リサ・ラングフォード

テキサス州 ラボック

4月12日(木)

実を結ぶ

聖書朗読 マタイ 13:1～9

なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。 ヨハネ 6:27

ちょっと一緒に来て！！私は主人を呼びました。これを見て！私たちの庭に今年初めて実ったトマトを見つけて、そのうれしさに思わず主人に声をかけました。それまで、何週間も雑草を取り、肥料をやり、水をやって見守ってきたトマトの最初の収穫ができることはこの上ない喜びです。

家庭菜園家として、マタイの福音書 13章1～9節のたとえ話を読むときに、私は神様が喜ぶ「小さな小道」のことがわかる気がします。良い地に蒔かれた種、新しい魂は、神の国を得たのです。

ガーデニングは簡単ではありません。毎日雑草が生えてきます。晴れと雨のバランスがちょうどいいことはそうめったにありません。同じように、神の国の建設も簡単ではありません。敵がまるで雑草が生えるように、私たちを覆ってしまおうと常に機会を狙っています。天の国で喜ばれることは神の国の到来を告げる新しい実になることです。

春も秋も夏も冬も 月も星もすべては
主のまことと憐れみと 尽きぬ愛を表す

—— トマス・O・クリスホルム

讃美歌 第二篇 191

祈り 親愛なる神様。あなたの業を私たちが行なうことができますように助けてください。神の国のための、私たちの働きが、人々の魂をあなたに導くことができますように。

キリストの御名により祈ります。アーメン。

マデリン・ピーターソン

ネブラスカ州 ヘイスティングス

4月13日(金)

舟の外から考える

聖書朗読 マタイ 14:22～32

イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。 マタイ 14:29

近年私たちがよく耳にする言葉のなかに「箱の外側から考える」という言葉があります。この意味するところは周知のことですが、聖書に出てくるペテロのように私たちは「舟の外から考える」ことが求められています。

ペテロと弟子たちはキリストが舟を目指して湖の上を歩いてくるまでは、安全で何の心配事もなく舟ですごしていました。そして突然現れたイエス様が幽霊ではないかと恐れしました。ペテロは怖がりませんでした。イエス様はその彼に「来なさい」と声をかけました。ペテロは舟の縁から一歩ふみ出し、舟を離れてイエス様に向かって歩き始めました。

水の上で彼はどんな気持ちだったでしょう。私たちは想像することしかできません。目をイエス様に向けている間はイエス様を信頼していたので、問題ありませんでした。しかし風が吹きつけ、集中していた意識をイエス様から周りの危険な環境に移すと大丈夫ではなくなってしまうました。ペテロがはじめに持っていた信仰＝水面に足を出し、その上にすくと立つ＝存在すべてをキリストにあずけてしまう信仰はなんとすばらしい信仰でしょう。

今日、私たちは「舟の外側」に踏み出して、イエス様に手をとっていただきましょう。驚くことが起きるに違いありません。

讃美歌 273B

祈り イエス様。私たちを愛してくださって感謝です。神様、あなたの愛を感謝します。聖霊様、私の人生の歩みへの助言を感謝します。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

ジーン・グン

テキサス州 ネダーランド

4月14日(土)

投 石 と 矢

聖書朗読 マタイ 27:27～40

また彼らはイエスにつばをかけ、葦を取り上げてイエスの頭をたたいた。

マタイ 27:30

シェイクスピアは「ハムレット」で主人公が出くわした数々の困難のことを「投げられる石、射かけてくる矢にさらされた、逃れようのない運命」と表現しています。人生に困難はつきものですし、聖書のヨブ記から、時には「いい人」にも困難がおきることを私たちは既に学んでいます。神様がもともとそう創ったわけではありませんが、人間がエデンの園で犯した最初の小さな罪がそのあとに続くすべての人間の歩みを狂わせてしまったのです。

神様の御子であるイエス様は天地創造のときには特別な役割を持って存在し、全く罪なきお方であったにもかかわらず、十字架刑の前にむごい仕打ちを受け、穢れた人々のあざけりを受けました。欠点のある弟子たちと同様、私たちにもたくさんの困難や苦しみがあることは驚くことではありません。大変な問題にいかに対応するかが重要なのです。その対応の基本は、私たちを気にかけてくださる神様に目を留めることです。パウロは私たちに神様を愛する人々にはすべてがよく働く（ローマ8：28）、と語っています。

“ In Life Trembles in ”（人生に躓いたとき）という人生の困難をどう克服するかを扱った、小さいが洞察の深い本で、最後に作者バットセル・バーレット・バクスタはこの言葉で結んでいます、「信仰者は彼に起きた試練や困難＝実際それが人生のほとんどだが＝を小さくするような努力はしない。神様がくださる力に期待するのである」。

讃美歌 第二篇 185

祈 里 栄光ある主よ。人生の試練や困難に出会うとき、あなたのご臨在と恵みに目をとめることができますように。

キリストの御名によって祈ります。アーメン。

ウェイン・エステス

カリフォルニア州 サウザンドオークス

4月15日(日)

ビブリオブロから学ぶこと

聖書朗読 マタイ 28章

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。 マタイ 28:19～20

4800冊の本を持った10本足のものはなんでしょうか？ ビブリオブロのことです！

このなぞなぞの答えは10年の歴史を誇る教育番組で放映されました。ルイス・ソリアーノ先生と2頭のロバ、アルファとベータは毎週土曜日に野を越え山を越え、はるばるマグダレナの町まで旅をし、その土地の子どもたちに本の読み方を教えるのです。先生はそのロバたちをビブリオブロ・・・ロバ図書館と呼んでいるわけですが、その献身的な働きと困難を乗り越える姿には本当に驚かされます。

ソリアーノ先生の献身の姿は、キリスト・イエスにある救いの知らせを携え聖書を読むことができない人々のところへ旅をし、伝えているクリスチャンたちのことを思いださせました。マルコの福音書16章20節には『彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。』とあります。主は私たちに同じように働かれるはずですよ。

もちろん知らない世界に出て行くときに危険が伴わないはずはありません。ソリアーノ先生は山賊に捕まえられ、手持ちのお金がまったく無かったのでそのまま解放されたこともあったそうです。

しかし、行くのをやめません。キリストに従うとき、危険を冒してもそこには従う価値があるからです。

讃美歌 第二篇 10

祈 里 親愛なる主よ。あなたの御子は遠く遠く旅をして私たちに福音を届けてくださいました。私たちも日々福音を携えあなたの送ってくださる場所へ旅をすることができますように、お導きください。

キリストの御名によって祈ります。アーメン。

マーク・R・ガイ

カリフォルニア州 ヴァジェロ